

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300022		
法人名	社会福祉法人 愛和会		
事業所名	グループホーム愛(1ユニット)		
所在地	岡山県津山市桑下1227-2		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 12 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の身体状態などを考慮し外出する機会は少なくなりましたが施設内で行える行事に力を入れており地域ボランティアによる訪問カラオケ、腹話術、踊り等楽しみになっている、一緒に昼食を賑やかに食べるのが恒例となりました。認知症の緩和と能力維持の為自立支援ができています。訪問看護訪問診療等で健康面の管理をしています。家庭的で暖かい雰囲気のあるゆったりとしたホームです。隣接の特養、ユニット型特養への入所もでき安心した生活が送れます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390300022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390300022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 19 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出が困難な中でも、施設内で一人ひとりのできることを実践したり、理念にもある第二の家庭を目指した取り組みをしたりしている。夏祭りを施設内で開催し際には、たこ焼きやかき氷を利用者は美味しそうに頬張り、ノンアルコールビールで乾杯をして満面の笑みがこぼれていた様子が写真に収められていた。訪問診療のドクターのバイオリン演奏が好評で、「情熱大陸」や童謡「紅葉」「ふるさと」「こがらし」を奏でていた。さらには、ボランティアの方が歌う、「炭坑節」が盛り上がり博し、利用者は手拍子で応えていた。作業中に、利用者から声を掛けられたら、作業を一旦止めて、利用者の声に耳を傾けるように配慮している。これは、評価員が洗い物をしている職員に聞き取りを行ったら、手を止めて耳を傾けて話を聞いて頂いたことにも表れていた。トイレで足が痒くなって洗う方へは、貼り紙をして対策を行い、入浴では皮膚疾患がある方へは、職員の掌に石鹸をつけて、丁寧に洗って肌にも心にも優しい。家族へは、毎月発行しているグループホーム愛だよりにて、利用者の様子を把握し、管理者からも手書きで一言コメントを書いて関係性が疎遠にならないように工夫している。利用者や家族の思いに寄り添い、触れ合いを大切にたまさに【愛】のある施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・目に付きやすい場所に掲示してある。 ・事業所で取り入れているユマニチュードを主任者会議、職員会議で周知を図っている。	法人理念とグループホームの理念・方針を事務所やリビングに掲示している。毎月、法人研修を開催し、ユマニチュード(見る・話す・触れる・立つ)の姿勢を大切にしている。職員が作業をしながら利用者と話をしないように配慮し、常に向き合えるように工夫している。	今以上に理念が浸透できるように工夫されてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域ボランティアが定着しています。中学校からイベントの案内があり、よく参加している。また中学生の慰問もあり、夏休みに職場体験の受け入れもしている。	定期的にボランティアの方に来て頂き、南京玉簾や紙芝居、オカリナ演奏会が行われた。中学校からの慰問や職場体験の受け入れも可能としている。近隣の人工池の鯉を眺めながら、住民の方と挨拶を交わしている。秋祭りでは、だんじりが駐車場まで来て、利用者は大いに喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・推進会議の時には地域代表の方に、認知症ケアについての取り組みを伝えている。 ・ボランティアの方にも認知症の人の理解や、支援の方法を伝えています。 ・ヘルパー実習の受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回実施し、現状報告や意見交換を通しサービス向上に活かしている。	コロナが落ち着いたので、現在は対面で実施できている。津山市高齢介護課、民生委員、駐在所の方、後見人、家族が参加している。行事報告、役所の方や民生委員との情報交換を行い、身体拘束についても報告ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・2ヶ月に1回は必ず連携をとっている。また研修等で会えば時間を取り状況等を伝え連絡を密に取っている。	生活保護の受給者も受け入れており、生活保護の担当者や社会福祉協議会とは、毎月情報を交換している。法改正や虐待について、わからない事があれば市役所の担当者へ相談している。市役所で開催される研修には、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関や戸を開けるとチャイムが鳴るようにしており日中は鍵をかけていない。外部研修で得た知識を職員会議を通じ身体拘束、スピーチロック等について内部研修にて理解しケアにつなげている。	日中玄関の鍵は、利用者が自由に出入りできるように開けている。チャイムを設置して、職員が利用者を把握しやすいように工夫している。毎月、身体拘束をはじめとする研修をウェブサイトを活用して実施している。スピーチロックについて気づいたことがあれば、その都度確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等で得た知識を職員会議、内部研修で実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修で知り得た事を、職員会議・内部研修等で職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が契約時に十分説明し実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族等の面会、推進会議に参加して下さった時意見を聴き、職員会議等で代表者に伝え反映に努めている。	何かあれば、電話で連絡を取るようになっている。夜間不穏になり落ち着かない様子の方へは、看護師や家族と相談して、ポケットのついたエプロンをつけて頂いたら落ち着いた様子が窺えた。運営推進会議では、家族の方の参加も多く、その際に意見を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、ミーティングを通して意見交換している。充分反映している。	毎月の職員会議の中で、職員から意見を集めている。職員からの意見で、風呂に垢が残っていたので新たに洗剤を購入したり、居室に床頭台がなかったため購入したりした。管理者と職員は昔からの仕事仲間だった方が多いので、日頃から多くの意見が飛び交っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は月1回の主任者会議、職員会議、午後の申し送り時に同席し、意見や要望を聞き入れようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部、内部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市が開催する『グループホーム研修』に、管理者や職員が参加し交流を図ったり、管理者が同業者との交流を図りサービスの質向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・共感、傾聴時にスキンシップやボディタッチをしながら信頼関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接又は面会時に情報収集しながら、家族の方の話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報収集時、本人、家族の方の話をしっかり聞きニーズを把握確認して支援出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご利用者様の話をよく聴き、話ができ伝えられる環境を作り、希望されるケアを実施している。できる事は一緒にいき信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の方と連携を取り、本人の状況報告。面会に来て頂き入居者との関わりを持ち、職員と一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前からの知り合いや近所の方などいつでも面会ができるようにしている。	面会は感染対策をした上で、対面で実施できている。隣接している通所の方と、手紙のやり取りが今でも続いている方もいる。訪問診療の先生が馴染みの関係となり、顔を合わせれば満面の笑みを浮かべている。帰宅願望がある方へは、ドライブがてら自宅前を通ったら、元気な表情となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員がご利用者様間の関係を把握し関わりを持ちながら、ご利用者様同士の交流が図れるようにしている(リビングのテーブルの配置、居間のソファの席等)。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時、必要に応じ支援する事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、しっかり希望や意向の把握に努め、本人の思いを大切にし細やかな対応に努めている。	居室やお風呂などの1対1の場面で意見が出やすい。さりげなく寄り添って傾聴する姿勢で接している。担当制を敷いているので、利用者の思いや意向の把握がしやすい。利用者から「ごみ捨てに行きたい」「洗濯物を畳むのを任せてほしい」との要望が挙がり、利用者の役割としてお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・面接時の情報収集や家族面会時、本人との日常会話から情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人に合った生活を送っていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご利用者様がその人らしく過ごしていただけるよう本人や家族、職員の意見を反映している。現状に伴い本人、家族を含めて話し合いをしながら見直しの実践をしている。	介護計画は、通所と兼務されているケアマネジャーを中心に作成している。パソコンで一括管理しているので、いつでも確認することができる。入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月、何もなければ半年毎に見直している。何か変化があれば、ケアマネジャーと相談してその都度対応している。モニタリングは介護保険更新時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録、申し送り、日誌で日々の様子やケアの内容を把握している。朝礼・申し送り時に情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族の方の状況も踏まえた上で、家族の方の協力を得ながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域ボランティアの方が来てくださり、カラオケ・小物作りを皆さんと一緒にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医が、必要により往診に来てくれる。月2回訪問診療を受ける方もいる。相談にも気軽に応じてもらい、適切な医療支援が来ている。	かかりつけ医は入居時に選べるが、全員が協力医に転医されている。24時間365日対応で安心できる。他科への対応は、協力医の先生に紹介状を書いて頂いている。月2回、訪問診療のドクターが来られ、利用者とは顔馴染みの関係となっているので、満面の笑みを浮かべる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回カンファレンスを行い、週1回の訪問看護で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・面会時、担当SW、主治医との連携を取り情報交換や相談関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族の方の要望を大切にし主治医と連携を図り、状態の変化に応じてその都度話をしている。	看取りは実施可能だが、ここ数年はなかった。入居時に救急搬送や緊急受診、施設での対応方法について「同意書」にて説明をして、サインを頂いている。重度化した際には、できるだけグループホームと病院を行き来できるように配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・訪看にアドバイスをしてもらい職員会議に反映している。 ・AEDの講習を消防署対応で行っている ・ヒヤリハットの検討を職員会議に行い、問題点ケアポイントの共有を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、ご利用者様参加の火災訓練を行う。地震について職員会議で防げる範囲の話し合い、マニュアル作り、対応の仕方の訓練をする。 ・自動通報装置も職員が使用出来るように訓練をしている。 ・推進会議に反映し地域の方の協力を求める。協力体制が出来つつある。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施した。災害時の避難場所に指定されている。民生委員の方とは、何かあった際には連携も図れている。災害時の避難地図、避難経路や連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、法人で一括管理をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員会議、朝礼、申し送り時等折りあるごと話し合いをしているが、安心してもらえるような声掛けに努めている。	基本的に苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際には、ノックをしてから入室するようにしている。利用者がお手洗いや浴室を使う時には、不快な思いをしないように、静かに誘うことで、プライバシーに配慮した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご利用者様の思いや希望を受け止め、本人が満足していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者様の希望で、花壇作り・コーヒータイム、中庭裏庭での日光浴等、ご利用者様のペースにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容・近所での散髪。本人が気に入った洋服は着ている。出かける時は一緒に選びます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食器の片づけなど出来ることをしていただいている。	食事は基本3食ケータリングだが、行事食にも対応している。クリスマスでは、手作りケーキやシチューを提供したら喜んで頂けた。108歳の利用者も介助なしで美味しそうに食べている姿が印象的だった。下膳やテーブル拭きを手伝ってくれる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・持病のある人、主治医の指示のもとご利用者様の食せる物を提供している。水分の摂取量が一目でわかるようにしており色々な飲み物の工夫をし不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後義歯の洗浄・うがいをしている。気になる人は毎日、そうでない人は週3回または状態に応じて毎食後あるいは毎日することもあるポリデントで清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個人の排泄パターンを把握し声掛け、誘導する事で、自立に向けた支援を行っている。 ・定時に声掛け必要に応じて誘導し、トイレで排泄を促している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。日中は全員がトイレで排泄していて、夜間のみポータブルトイレを使用される方もいる。布パンツで生活されている方もおられる。排泄記録はパソコンで管理しているので、入力すれば様々な情報が共有できるので、職員の負担軽減に繋がった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給、排泄につながる飲み物、食物繊維の多い食材を使用し、散歩、ラジオ体操、廊下歩行などの軽運動につなげることで予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・其の日の状態を把握し、本人の希望に合わせて入浴を行い、入居者にそった支援をしている。	週2～3回の提供。浴槽に浸かれない方へは、足浴やシャワー浴で対応している。入浴を拒否される方へは、「散歩へ行こう」と言葉掛けをしている。お風呂で演歌を流すと、一緒に楽しそうに歌っている方もいる。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯の提供もあり、入浴剤を使用して気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・眠れないときはリビングでテレビを観てもらったりスタッフとお話したりして安眠につながるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の難しい方は顆粒、散剤にして飲みやすくして手に渡したり、口に入れたり服薬できた事を確認している。服薬後の状態観察もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ゴミ捨てで一輪車を押す人、廊下のモップ掛け、洗濯干し、洗濯たたみ、お膳拭き、できる事をできる人に喜んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・イベントへの参加・馴染みの場所へのドライブ・買い物・散歩・家族の方を交えて花見・運動会を行っています。楽しみの事柄になっており、良い気分転換になっている。	春には、施設から広大な自然の中に咲く桜を眺め、夏には施設内でお祭りを開催し、たこ焼きやかき氷を食べ、ノンアルコールビールで乾杯をした。秋には、奥津温泉へ行き、紅葉を堪能した。冬にはクリスマス会で、職員がサンタクロースに扮して、プレゼントを渡したら喜んで頂けた。	コロナ終焉に向けて、今から外出計画を立てて、実行できるように準備を始めてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭の自己管理が難しいので全員の方預っている。本人の希望があれば一緒に買い物に出かける等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は何時でも出来る様にしている。年賀状はスタッフと一緒に便りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間には季節感を採り入れ、花やちぎり絵、写真等を飾っている。 ・場所認識がしやすいようマークを張り出し分かり易いように工夫している。	午前中はバイタルチェックの後のティータイムや第1、第2のラジオ体操で運動をした後のスポーツドリンクでの水分補給が日課となっている。外出がしにくい状況なので、自然の木を飾り、周りには紅葉や雪をつけて、季節感を味わえるように工夫している。洗濯物を畳んだり、TVを観たりして、寛いでいる姿が印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングのテーブル、ソファー等、ご利用様が好きなところで過ごし、ご利用者様同士譲り合ったりしながら自由に過ごせる場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンス・テレビ・トイレ等使い慣れた物を居室に設置している。又写真・絵等を好きなように飾っている。	備え付けは、ベッド、クローゼット、エアコン、加湿器、洗面台、ヘッドライト。安全面に配慮して開け閉めは自由にしている。大きな窓からは明るい光が差し込んでいて、誕生日記念に頂いた写真入りの色紙が大切に飾られていた。オセロやカルタを楽しんだり、脳トレやナンプレをして思い思いの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー、手摺使用で安全を図っている。居室の入り口には本人・家族の方の了解の下、名前を貼ったり花のタイルを付けて目印になるよう本人に分かりやすく工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300022		
法人名	社会福祉法人 愛和会		
事業所名	グループホーム愛(2ユニット)		
所在地	岡山県津山市桑下1227-2		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 12 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の身体状態などを考慮し外出する機会は少なくなりましたが施設内で行える行事に力を入れており地域ボランティアによる訪問カラオケ、腹話術、踊り等楽しみになっている、一緒に昼食を賑やかに食べるのが恒例となりました。認知症の緩和と能力維持の為自立支援ができています。訪問看護訪問診療等で健康面の管理をしています。家庭的で暖かい雰囲気のあるゆったりとしたホームです。隣接の特養、ユニット型特養への入所もでき安心した生活が送れます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390300022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390300022-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 19 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出が困難な中でも、施設内で一人ひとりのできることを実践したり、理念にもある第二の家庭を目指した取り組みをしたりしている。夏祭りを施設内で開催し際には、たこ焼きやかき氷を利用者は美味しくそうに頬張り、ノンアルコールビールで乾杯をして満面の笑みがこぼれていた様子が写真に収められていた。訪問診療のドクターのバイオリン演奏が好評で、「情熱大陸」や童謡「紅葉」「ふるさと」「こがらし」を奏でていた。さらには、ボランティアの方が歌う、「炭坑節」が盛り上がり博し、利用者は手拍子で応えていた。作業中に、利用者から声を掛けられたら、作業を一旦止めて、利用者の声に耳を傾けるように配慮している。これは、評価員が洗い物をしている職員に聞き取りを行ったら、手を止めて耳を傾けて話を聞いて頂いたことにも表れていた。トイレで足が痒くなって洗う方へは、貼り紙をして対策を行い、入浴では皮膚疾患がある方へは、職員の掌に石鹸をつけて、丁寧に洗って肌にも心にも優しい。家族へは、毎月発行しているグループホーム愛だよりにて、利用者の様子を把握し、管理者からも手書きで一言コメントを書いて関係性が疎遠にならないように工夫している。利用者や家族の思いに寄り添い、触れ合いを大切にたまさに【愛】のある施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・目に付きやすい場所に掲示してある。 ・事業所で取り入れているユマニチュードを主任者会議、職員会議で周知を図っている。	法人理念とグループホームの理念・方針を事務所やリビングに掲示している。毎月、法人研修を開催し、ユマニチュード(見る・話す・触れる・立つ)の姿勢を大切にしている。職員が作業をしながら利用者と話をしないように配慮し、常に向き合えるように工夫している。	今以上に理念が浸透できるように工夫されてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域ボランティアが定着しています。中学校からイベントの案内があり、よく参加している。また中学生の慰問もあり、夏休みに職場体験の受け入れもしている。	定期的にボランティアの方に来て頂き、南京玉簾や紙芝居、オカリナ演奏会が行われた。中学校からの慰問や職場体験の受け入れも可能としている。近隣の人工池の鯉を眺めながら、住民の方と挨拶を交わしている。秋祭りでは、だんじりが駐車場まで来て、利用者は大いに喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・推進会議の時には地域代表の方に、認知症ケアについての取り組みを伝えている。 ・ボランティアの方にも認知症の人の理解や、支援の方法を伝えています。 ・ヘルパー実習の受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回実施し、現状報告や意見交換を通しサービス向上に活かしている。	コロナが落ち着いたので、現在は対面で実施できている。津山市高齢介護課、民生委員、駐在所の方、後見人、家族が参加している。行事報告、役所の方や民生委員との情報交換を行い、身体拘束についても報告ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・2ヶ月に1回は必ず連携をとっている。また研修等で会えば時間を取り状況等を伝え連絡を密に取っている。	生活保護の受給者も受け入れており、生活保護の担当者や社会福祉協議会とは、毎月情報を交換している。法改正や虐待について、わからない事があれば市役所の担当者へ相談している。市役所で開催される研修には、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関や戸を開けるとチャイムが鳴るようにしており日中は鍵をかけていない。外部研修で得た知識を職員会議を通じ身体拘束、スピーチロック等について内部研修にて理解しケアにつなげている。	日中玄関の鍵は、利用者が自由に出入りできるように開けている。チャイムを設置して、職員が利用者を把握しやすいように工夫している。毎月、身体拘束をはじめとする研修をウェブサイトを活用して実施している。スピーチロックについて気づいたことがあれば、その都度確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等で得た知識を職員会議、内部研修で実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修で知り得た事を、職員会議・内部研修等で職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が契約時に十分説明し実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族等の面会、推進会議に参加して下さった時意見を聴き、職員会議等で代表者に伝え反映に努めている。	何かあれば、電話で連絡を取るようになっている。夜間不穏になり落ち着かない様子の方へは、看護師や家族と相談して、ポケットのついたエプロンをつけて頂いたら落ち着いた様子が窺えた。運営推進会議では、家族の方の参加も多く、その際に意見を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、ミーティングを通して意見交換している。充分反映している。	毎月の職員会議の中で、職員から意見を集めている。職員からの意見で、風呂に垢が残っていたので新たに洗剤を購入したり、居室に床頭台がなかったので購入したりした。管理者と職員は昔からの仕事仲間だった方が多いので、日頃から多くの意見が飛び交っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は月1回の主任者会議、職員会議、午後の申し送り時に同席し、意見や要望を聞き入れようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部、内部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市が開催する『グループホーム研修』に、管理者や職員が参加し交流を図ったり、管理者が同業者との交流を図りサービスの質向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・共感、傾聴時にスキンシップやボディタッチをしながら信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接又は面会時に情報収集しながら、家族の方の話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報収集時、本人、家族の方の話をしっかり聞きニーズを把握確認して支援出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご利用者様の話をよく聴き、話ができ伝えられる環境を作り、希望されるケアを実施している。できる事は一緒にいき信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の方と連携を取り、本人の状況報告。面会に来て頂き入居者との関わりを持ち、職員と一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前からの知り合いや近所の方などいつでも面会ができるようにしている。	面会は感染対策をした上で、対面で実施できている。隣接している通所の方と、手紙のやり取りが今でも続いている方もいる。訪問診療の先生が馴染みの関係となり、顔を合わせれば満面の笑みを浮かべている。帰宅願望がある方へは、ドライブがてら自宅前を通ったら、元気な表情となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員がご利用者様間の関係を把握し関わりを持ちながら、ご利用者様同士の交流が図れるようにしている(リビングのテーブルの配置、居間のソファの席等)。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時、必要に応じ支援する事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、しっかり希望や意向の把握に努め、本人の思いを大切にし細やかな対応に努めている。	居室やお風呂などの1対1の場面で意見が出やすい。さりげなく寄り添って傾聴する姿勢で接している。担当制を敷いているので、利用者の思いや意向の把握がしやすい。利用者から「ごみ捨てに行きたい」「洗濯物を畳むのを任せてほしい」との要望が挙がり、利用者の役割としてお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・面接時の情報収集や家族面会時、本人との日常会話から情報収集に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人に合った生活を送っていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご利用者様がその人らしく過ごしていただけるよう本人や家族、職員の意見を反映している。現状に伴い本人、家族を含めて話し合いをしながら見直しの実践をしている。	介護計画は、通所と兼務されているケアマネジャーを中心に作成している。パソコンで一括管理しているので、いつでも確認することができる。入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月、何もなければ半年毎に見直している。何か変化があれば、ケアマネジャーと相談してその都度対応している。モニタリングは介護保険更新時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録、申し送り、日誌で日々の様子やケアの内容を朝礼・申し送り時に情報を共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族の方の状況も踏まえた上で、家族の方の協力を得ながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域ボランティアの方が来てくださり、・カラオケ・小物作りを皆さんと一緒にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医が、必要により往診に来てくれる。月2回訪問診療を受ける方もいる。相談にも気軽に応じてもらい、適切な医療支援が 出来ている。	かかりつけ医は入居時に選べるが、全員が協力医に転医されている。24時間365日対応で安心できる。他科への対応は、協力医の先生に紹介状を書いて頂いている。月2回、訪問診療のドクターが来られ、利用者とは顔馴染みの関係となっているので、満面の笑みを浮かべる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回カンファレンスを行い、週1回の訪問看護で対応している。。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・面会時、担当SW、主治医との連携を取り情報交換や相談関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族の方の要望を大切にし主治医と連携を図り、状態の変化に応じてその都度話しをしている。	看取りは実施可能だが、ここ数年はなかった。入居時に救急搬送や緊急受診、施設での対応方法について「同意書」にて説明をして、サインを頂いている。重度化した際には、できるだけグループホームと病院を行き来できるように配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・訪看にアドバイスをしてもらい職員会議に反映している。 ・AEDの講習を消防署対応で行っている ・ヒヤリハットの検討を職員会議に行い、問題点ケアポイントの共有を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、ご利用者様参加の火災訓練を行う。地震について職員会議で防げる範囲の話し合い、マニュアル作り、対応の仕方の訓練をする。 ・自動通報装置も職員が使用出来るように訓練をしている。 ・推進会議に反映し地域の方の協力を求める。協力体制が出来つつある。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施した。災害時の避難場所に指定されている。民生委員の方とは、何かあった際には連携も図れている。災害時の避難地図、避難経路や連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、法人で一括管理をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員会議、朝礼、申し送り時等折りあるごと話し合いをしているが、安心してもらえるような声掛けに努めている。	基本的に苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際には、ノックをしてから入室するようにしている。利用者がお手洗いや浴室を使う時には、不快な思いをしないように、静かに誘うことで、プライバシーに配慮した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご利用者様の思いや希望を受け止め、本人が満足していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者様の希望で、花壇作り・コーヒータイム、中庭裏庭での日光浴等、ご利用者様のペースにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容・近所での散髪。本人が気に入って洋服は着ている。出かける時は一緒に選びます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食器の片づけなど出来ることをしていただいている。	食事は基本3食ケータリングだが、行事食にも対応している。クリスマスでは、手作りケーキやシチューを提供したら喜んで頂けた。108歳の利用者も介助なしで美味しそうに食べている姿が印象的だった。下膳やテーブル拭きを手伝ってくれる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・持病のある人、主治医の指示のもとご利用者様の食せる物を提供している。水分の摂取量が一目でわかるようにしており色々な飲み物の工夫をし不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後義歯の洗浄・うがいをしている。気になる人は毎日、そうでない人は週3回または状態に応じて毎食後あるいは毎日することもあるポリデントで清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個人の排泄パターンを把握し声掛け、誘導する事で、自立に向けた支援を行っている。 ・定時に声掛け必要に応じて誘導し、トイレで排泄を促している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。日中は全員がトイレで排泄していて、夜間のみポータブルトイレを使用される方もいる。布パンツで生活されている方もおられる。排泄記録はパソコンで管理しているので、入力すれば様々な情報が共有できるので、職員の負担軽減に繋がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給、排泄につながる飲み物、食物繊維の多い食材を使用し、散歩、ラジオ体操、廊下歩行などの軽運動につなげることで予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・其の日の状態を把握し、本人の希望に合わせて入浴を行い、入居者にそった支援をしている。	週2～3回の提供。浴槽に浸かれない方へは、足浴やシャワー浴で対応している。入浴を拒否される方へは、「散歩へ行こう」と言葉掛けをしている。お風呂で演歌を流すと、一緒に楽しそうに歌っている方もいる。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯の提供もあり、入浴剤を使用して気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・眠れないときはリビングでテレビを観てもらったりスタッフとお話したりして安眠につながるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の難しい方は顆粒、散剤にして飲みやすくして手に渡したり、口に入れたり服薬できた事を確認している。服薬後の状態観察もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ゴミ捨てで一輪車を押す人、廊下のモップ掛け、洗濯干し、洗濯たたみ、お膳拭き、できる事をできる人に喜んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・イベントへの参加・馴染みの場所へのドライブ・買い物・散歩・家族の方を交えて花見・運動会を行っています。楽しみの事柄になっており、良い気分転換になっている。	春には、施設から広大な自然の中に咲く桜を眺め、夏には施設内でお祭りを開催し、たこ焼きやかき氷を食べ、ノンアルコールビールで乾杯をした。秋には、奥津温泉へ行き、紅葉を堪能した。冬にはクリスマス会で、職員がサンタクロースに扮して、プレゼントを渡したら喜んで頂けた。	コロナ終焉に向けて、今から外出計画を立てて、実行できるように準備を始めてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭の自己管理が難しいので全員の方預っている。本人の希望があれば一緒に買い物に出かける等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は何時でも出来る様にしている。年賀状はスタッフと一緒に便りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間には季節感を採り入れ、花やちぎり絵、写真等を飾っている。 ・場所認識がしやすいようマークを張り出し分かり易いように工夫している。	午前中はバイタルチェックの後のティータイムや第1、第2のラジオ体操で運動をした後のスポーツドリンクでの水分補給が日課となっている。外出がしにくい状況なので、自然の木を飾り、周りには紅葉や雪をつけて、季節感を味わえるように工夫している。洗濯物を畳んだり、TVを観たりして、寛いでいる姿が印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングのテーブル、ソファー等、ご利用様が好きなところで過ごし、ご利用者様同士譲り合ったりしながら自由に過ごせる場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンス・テレビ・トイレ等使い慣れた物を居室に設置している。又写真・絵等を好きなように飾っている。	備え付けは、ベッド、クローゼット、エアコン、加湿器、洗面台、ヘッドライト。安全面に配慮して開け閉めは自由にしている。大きな窓からは明るい光が差し込んでいて、誕生日記念に頂いた写真入りの色紙が大切に飾られていた。オセロやカルタを楽しんだり、脳トレやナンプレをして思い思いの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー、手摺使用で安全を図っている。居室の入り口には本人・家族の方の了解の元名前を貼ったり花のタイルを付けて目印になるよう本人に分かりやすく工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				